



学校だより



学校教育目標

「学び合い、つながり合い、一人ひとりの可能性を最大限に伸ばす」

令和7年度(令和8年)3月号 枚方市立小倉小学校 電話050(7102)9092

日ごとに春の陽気が感じられるようになり、校庭の桜のつぼみも少しずつ膨らみ始めています。保護者の皆様、地域の皆様には、この1年間、本校の教育活動を温かく支えていただきましたこと、心より感謝申し上げます。

いよいよ令和7年度も、残すところあと1ヶ月となりました。3月は「今年度のまとめ」をしっかりと行い、「新しい学年への目標」を決める大切な節目です。

今、校内では各学年が、この一年間の集大成に向かって歩みを進めています。6年生は、3月18日の卒業証書授与式に向けて、最後の1日1日を大切に過ごしています。今年度、本校が大切にしてきた「児童主体の学び」において、最高学年として常に下級生をリードしてくれた彼らなら、きっと胸を張って素晴らしい卒業式を迎えてくれることでしょう。また、5年生は、6年生から「小倉のバトン」を受け継ぐ準備を始めています。在校生代表として卒業式に参列するその背中からは、最高学年になるという自覚が少しずつ芽生えているように感じます。1~4年生も、これまでの学習や「小倉 Jr.パビリオン」などの活動で得た自信を胸に、今の学年をしっかりと締めくくり、新しい学年への一歩を踏み出そうと頑張っています。

「一月は行く、二月は逃げる、三月は去る」と言われるほど、この時期はあっという間に過ぎ去ります。子どもたち一人ひとりが、自分の成長を実感し、笑顔で修了式を迎えられるよう、教職員一同、最後まで全力で支援してまいります。

今月も引き続き、本校の教育活動へのご理解とご協力をお願い申し上げます。

枚方市立小倉小学校 校長 雨森 正浩

1年生参観



2年生参観



3年生参観



4年生参観



5年生参観



6年生参観



授業参観

行事のタイトルをタップすると、学校ブログで詳細を確認することができます。是非、ご覧ください。また、下のQRコードから学校ブログに入ることができます。



タイトルをタップして下さい！

次期学習指導要領改訂に向けた「論点整理」のお知らせ

現在、文部科学省の中央教育審議会では、子供たちが未来を主体的に切り拓いていく力を育むため、次期学習指導要領の改訂に向けた議論が進められています。この度、その柱となる「論点整理」がまとめられました。今回の改訂の大きな方向性は、「**多様な子供たちの『深い学び』を確かなものに**」することです。これは、**学びの質を高める (Excellence)**、**多様な子供たちを誰一人取り残さない (Equity)**、そして**無理のない持続可能な教育体制を整える (Feasibility)** という3つの考え方を一体として進めるものです。

小学校において、保護者の皆様に関わりの深い主なポイントをわかりやすくご紹介します。

1. 「生きて働く確かな知識」を育む

これまでの「知識を覚える」学習から、その知識を社会や生活の場面でどう使うかという「概念の深い理解」を重視する学習へとさらに進化します。たとえば算数では、単に計算ができるだけでなく、分数や小数の意味を根本から理解し、日常で活用できる力を養います。

2. 一人ひとりに応じた柔軟な学び（調整授業時数制度）

子どもたちの個性や学習の進度、不登校など、多様な実態に合わせるため、学校が授業時間を柔軟に調整できる「**調整授業時数制度**」の創設が検討されています。これにより生み出された「余白（裁量的な時間）」を使い、基礎学力の定着のための個別支援や、興味を深める探究活動など、一人ひとりのニーズに応じたきめ細かな指導が可能になります。

3. 情報活用能力と探究する力の育成

デジタル社会を生き抜くため、小学校の「総合的な学習の時間」に「**情報の領域（仮称）**」が加わる予定です。タブレット端末などを単なる道具として使うだけでなく、情報の正しい扱い方や技術の仕組みを学び、自ら課題を見つけて解決する「探究的な学び」の基盤をしっかりと作ります。

4. 成長を肯定的に見守る新しい「学習評価」

子供たちの意欲を削ぐことなく、成長を後押しする評価への見直しが進んでいます。

- ・「**個人内評価**」の重視：学習への態度の評価（主体的に学習に取り組む態度）については、他人との比較ではなく、その子自身の良さや成長のプロセスを肯定的に見取る「個人内評価」へと改める方向です。
- ・**フィードバックの充実**：学期途中の成績（評定）を出すことよりも、日々の学習の中で「どこが良くなったか」「次はどうすればいいか」という**具体的なアドバイス（フィードバック）**を重視することを促します。

「みんな」で子供を育むために

今回の改訂では、教職員だけでなく、**保護者や地域の皆様も「学びを支える主体」として**位置づけられています。学校と家庭、地域が連携し、子供たち一人ひとりのウェルビーイング（幸福）の実現を目指してまいります。今後、具体的な内容がさらに検討されていきます。学校でも新しい学びに向けた準備を進めてまいりますので、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

